

様式第1号（第6条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回坂戸市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和6年5月16日（木） 午前10時00分 開会 午前11時30分 閉会
開 催 場 所	坂戸市役所303, 304会議室
議長（委員長・会長）の氏名	竹下 玲
出席者（委員）の氏名・出席者数	大塚 早苗、田島美代子、島田 隆、竹下 玲、 西村 早苗、本間 絹江、吉川 和美、小川 君子、 吉田 由加理 計9名
欠席者（委員）の氏名・欠席者数	有光 博、土田 典子、酒井 誠、安川 光、 白田 涼一 計5名
事務局職員の職・氏名	こども健康部部長 井上 晋 こども健康部次長兼こども支援課長 三谷 良昭 こども健康部副参与兼市民健康センター所長 有田 さおり こども健康部保育課長 加賀谷 順子 教育委員会事務局 社会教育課長 菅野 規之 こども支援課：戸谷課長補佐、前川課長補佐、森田課長補佐、 藤島係長、吉野主任、石川主任 保育課：関口課長補佐、藤本係長、小谷野係長 市民健康センター：栗田係長
会 議 次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 自己紹介 4 議 事 （1）子育て支援に関するアンケート調査及び坂戸市子どものいる世帯の生活状況等に関する調査の調査結果について （2）こども・若者に対するアンケート（案）について （3）「坂戸市こどもまんなか計画」（仮称）の骨子（案）について 5 その他 6 閉 会

配 布 資 料	1 事前送付資料 (1) こども・若者に対するアンケート項目一覧（案） (2) 坂戸市こどもまんなか計画（仮称）骨子（目次構成）（案） 2 当日配布資料 (1) 令和6年度第1回坂戸市児童福祉審議会次第 (2) 坂戸市児童福祉審議会委員名簿 (3) 令和6年度第1回坂戸市児童福祉審議会事務局名簿 (4) 坂戸市こどもまんなか計画（仮称）の策定スケジュールについて (5) こども大綱【説明資料】 (6) 坂戸市子育て支援に関するアンケート調査調査結果報告書 (7) こども家庭センター案内 (8) 公私連携型保育所 坂戸保育園が完成しました
---------	---

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進行（事務局）	1 開会
	2 挨拶
	3 自己紹介
進行（会長）	4 議事 （1）子育て支援に関するアンケート調査及び坂戸市子どものいる世帯の生活状況等に関する調査の調査結果について
事務局	坂戸市子育て支援に関するアンケート調査調査結果報告書に基づき説明。
（質問）	
委員	有効回答率が高くないように思うが、有効回答率について、今までのアンケートの回収率に比べてどうか。悪かった場合、何か工夫を考えているか。
事務局	前回の計画策定の際のこども・子育て支援事業計画の回収率は、就学前児童が 56.7%、貧困対策推進計画における公的援助世帯は有効回答率 50%、一般世帯は回収率 62.5%、最後に学童保育・放課後児童クラブのアンケートは回収率 48.8%となっている。全体的に回答率は下がっており、1つの要因として、こども大綱を踏まえ、アンケート項目数がかなり多くなってしまったことで回答率を下げたのではないかと捉えている。回収率は下がったものの 40%以上は回収できているので、ある程度信頼性があるアンケート結果だと考える。 今回インターネットでアンケートに答えられるように工夫したが、今後もアンケートの回収率が高くなるための工夫を考えていきたい。
委員	ウェブ回答はどれくらいあったか。
事務局	後日、文書で回答させて頂く。

委員	(2) こども・若者に対するアンケート（案）について 設問 No.10「現在どのような悩みがありますか」の回答項目に「食事」というのを足したら良いと考える。朝食を食べてこないこどもも現状として多く、食事は大事なので項目に足してはいいかがか。
事務局	回答項目に入れるよう、検討する。
委員	設問 No.10 について、悩みの選択は「2つまで選択可」となっているが、どうして2つまでになっているのか。
事務局	ある程度自分の中で優先順位が高いものを選んでいただきたいという考えのもと、「2つまで選択可」とさせていただいたが、妥当なのかは検討していきたい。ご意見があればいただきたい。
委員	個人的にはもう1つでも増やせたら、質問する本人の立場に寄り添えるのではないかと思う。
事務局	他にもご意見があれば検討させていただく。
委員	選んだ子どもにとってどれが1番なのか、2番なのかといったマークはつけられるのか。
事務局	1番必要なものの番号を書き、2番目に必要なものの番号を書く形にすることは可能。
委員	選択する数は、いくつでもよいと思う。それで上がってきた量に対して、多くの人がそのことについて悩んでいるという捉え方をする。
事務局	あえて選択にするのではなく、本人が思っている悩みすべてに○をつけてもらうことで、その悩みが非常にこの世代にとっては大きいということがわかると思われる。そのような流れにさせていただく。
委員	このアンケートはかなり細かく聞いており、これをうまく利用すれば、アン

